

令和4年度 橋処理センター整備事業に係る地域住民と行政による検討協議会

第43回 議事録（要約）

日 時 令和4年7月22日（金） 18時10分 ～ 20時45分

場 所 川崎市民プラザ 会議室209・210

1 検討協議会外の報告案件

（1）川崎市の脱炭素戦略についての紹介

【概要】

脱炭素戦略推進室より、川崎市の脱炭素戦略について紹介がありました。

【質疑要約】

推 進 室： 川崎市の脱炭素戦略について紹介を行う。（詳細省略）

市民委員： まず、実現するための具体策がないと実現できないと思います。

例えば水素は、金属脆化作用があり、爆発範囲濃度が4～75%と扱うのが非常に難しく、コストが異常にかかります。水素を輸入しようとした場合、水素の製造過程で出たCO₂やCOを現地で処理させることになる上、圧縮効率が悪いので、輸送コストもかかります。水素を燃やしても、都市ガスよりカロリーが低く、電気をつくるとしても非常にコストの高いグリーン電力です。

また、水素自動車は危なく難しい部分がありますが、電気自動車はエコカーとして非常に優秀です。しかしどちらも、ガソリンスタンドでチャージの場を設けようとしても、国の助成なしでは成立せず、ビジネスベースに乗りません。チャージのステーションをどこに作るのかといったことに取り組むことによって変わると思いますが、現状では普及するかどうかは現実的ではないと思います。

そういう実態の中で、本当に何をしていくかが課題だと思います。

加えて、再生可能エネルギーは日本の気候風土に合っていないので、むしろバーチャルパワープラントに組み込み、融通して使うといったことを考えるべきだと思います。

電力も、企業がグリーン電力のバイヤーをやっていますが、結局コストが上がってしまいますし、発電にしても、原子力や天然ガスの話題があがっています。しかし原子力発電は、廃棄物などの問題が解決していないので、その他のより環境負荷の無い発電を現実的に組み込み、方針を考える必要があると思います。

川崎は工業地帯があるので、製鉄所が多くCO₂を排出しますが、代わりに水素の研究をしており、水素に関しては製鉄所が一番技術力を持っていると思います。ただ、工場内で回していくので、外へ出てこないです。

2013年から比べて5割減らすと言っても無理がありますし、全体を見ながら、川崎市として現実的に考えないと、変わっていかないと思います。

推 進 室： 川崎市の場合は、大手鉄鋼会社の工場があるので、どうにか既存の技術を活用できるのではないかと考えています。

市民委員： 水素で製鉄を試みる実験はしていますね。コストの問題はありますが、製鉄業はかなりよくやっていると思います。

推 進 室： 2050年に向けて選択肢を複数用意しておくために、今の技術の情報を押さえたいと思っています。どの技術にも、それぞれメリット・デメリットがあるので、比較考慮を見ていかなければならない段階であると理解しています。

- 国を中心にエネルギーの施策をやるとしても、納得感のある生活を送っていただくためには、市民の皆さんと議論ができる場が必要なのではないかと思います、こういった機会にお話しさせていただきました。
- 市民委員： 事業者から情報を集めて、そのテストトライアルを行うなど、地に足をつけた対応をしてみてもいいですか。
- 推進室： そういった提案に対応する窓口を設けておりますので、情報をお寄せいただけるとありがたいです。できることを少しずつやっていきたいと思っています。
- 市民委員： JR 武蔵溝ノ口駅のエコステは、太陽光発電で水素を作っているということですね。イニシャルコストはどうなっていますか。
- 推進室： イニシャルコストはかなりかかっています。駅の電気を賄っていますが、照明が中心なので現状採算は合わないと思います。
- 市民委員： ただエコステは、帰宅困難者対策を含めた災害時を考慮したもので、実証して全国の駅に広げていきたいということです。
- 市民委員： 電気で水素を作った後でまた電気にすると効率が良くないので、蓄電装置に貯めたほうが早くて安いんです。日本のやり方は、水素にこだわりすぎていて、あまり現実的ではないと思っています。
- 推進室： 繋ぎのための技術では意味がないので、2050 年につながる技術の見極めをしていかなければならないタイミングであると思っています。
- 会長： CO₂ の排出源として、川崎市は事業系の排出量が非常に多く、他の都市と比べて全く違う点だということですが、その事業系の中に CO₂ 排出源として橘処理センターを組み込んだ上で、この施策を考えているのでしょうか。
- 推進室： 先程の排出率の表の中でも示しましたが、焼却に伴うところは24%としています。これは橘も含めた3処理センターの中で目指すものです。
- 市民委員： しかし、それはゴミを減らして CO₂ 排出量を減らす方針で、直接的な温室効果ガス削減対策の導入は検討していないということですね。
- 会長： 我々としては、それはおかしいのではないかと思います。
- 会長： 同時に、この施策の中にも入っていた環境教育も、どういう位置づけになっているのでしょうか。
- 推進室： 橘処理センターとは一旦切り離させていただきます。
- 市民委員： 今回お話しした施策を全て理解していただくというのは難しいですが、市民生活の中でも、民生部門は50%削減とあり、日常生活の中でも削減する取組みが重要です。消費者が選ぶ立場になるので、どういう過程でものが作られていて、どのくらい CO₂ が出ているかということも合わせて環境教育の中でケアする必要があると思っています。
- 市民委員： そういう意味では、環境教育は、日常生活の身近なところから始まって、世の中の仕組みも理解いただくといった、全体像を理解していただくといった位置づけになります。
- 事務局： 市全体のこれからの取組として説明していただいています。これを基に我々施設部もしくは各局が具体的にどう CO₂ を削減していくのかということが下りてくると認識しています。
- 市民委員： その後の具体的な話はその後協議したいと思いますので、ここで脱炭素戦略推進室には退席いただきます。
- 推進室： 今日はまず全体像をお伝えしましたが、説明の中で不明点があれば、施設部を経由して構いませんので、問い合わせいただきたいです。
- 事務局： これから先も連携して進めていきます。

2 報告及び協議内容

(1) 橘リサイクルコミュニティセンターのあり方についての報告

【概要】

事務局より、橘リサイクルコミュニティセンターのあり方について報告がありました。

環境教育・環境学習機能の整備方針に関する課題について協議を行いました。

【発言要約】

事務局： 橘リサイクルコミュニティセンターのあり方について、減量推進課に代わり、事務局から説明を行う。(詳細省略)

市民委員： 検討協議会で議論していたようなことを、この建物で、今後どうやって子供たちに面白く伝えていくかが重要だと思います。駅からも遠く、何をする施設かあまり知られていないので、今の施設に行きたいと思う人は少ないと思います。

市民委員： あの建物はその後どうなりますか。どこが管理しますか。

事務局： その後については、庁内で検討中です。環境局が管理する方向で考えていますが、まだ決まっていません。

市民委員： 橘処理センターと一緒に管理するならそれで良いですが、よその局が管理するというのは、話と違いますか。

事務局： 我々で管理したいという意思表示はしています。

全庁的に、この場所を使いたい局を調査しましたが、使うという局はひとつありませんでした。なので、方向性としては我々が管理していく方向かと思っています。

市民委員： 使わないのであれば壊す以外ないでしょうし、汚くなっているので、使うのであれば改修工事をして欲しいと思います。

市民委員： 使うことが前提で、検討協議会で議論してきたので、頑張って新しく綺麗にして欲しいです。

市民委員： 改修の予算は組まれていないのですか？

事務局： 元々所管課が使う予定でした。

市民委員： 今までは所轄課が違っていたようですが、一緒になるのなら、当然一緒に考えられると思います。

副会長： 橘リサイクルコミュニティセンターという、環境教育も行っていた公の施設が、議会の中で公の施設ではなくなったということになります。

市民委員： それは市の判断で、我々の考え方とは全然違います。

事務局： 橘リサイクルコミュニティセンターの建物を使うためにいくつか働きかけをしています。環境教育の主体は環境局ですが、整備しても来てもらわなければ意味が無いので、使っていただくためには教育委員会の協力が必要と考えています。

まずは教育委員会のカリキュラムセンターの、小学校中学校全体を含めた社会科の先生を取りまとめている、主事の方と話をさせていただきました。施設の内容について説明して、資料も見ていただいた上で、小学校中学校の社会科の担当の先生から意見を収集し、提案をいただけるという内容で話をしています。

また、小学校の授業では GIGA 端末を使用した授業が行われているということで、新施設でも GIGA を使ったものを期待しているという意見をいただきました。今は文献等の調査も、GIGA 端末を利用しているので、教育委員会・環境局で協力して、資料等は GIGA で見られるような形にまとめて欲しいという要望をいただいています。

他には、今は中学校の授業の中で、ごみ焼却処理施設単体を見に行くことは難しいというお話をいただいています、教育委員会としては協力したいという意見をいただいていますので、引き続き話し合いを続けていきます。

市民委員： これは方向性の話をしていますか。橋リサイクルコミュニティセンターも使うということですか。

事務局： 橋処理センターがあって初めて、橋リサイクルコミュニティセンターの利用があるのは間違いないです。

市民委員： 条例で、来年4月1日から橋リサイクルコミュニティセンターは無くなってしまうということですね。

事務局： 在り方としては無くなりますが、建物自体は残ります。

市民委員： 建物だけが残るとのことですが、それは使えるということで良いですか。

事務局： まだわかりませんが、建物を使っていきたい旨と、イベントをする際には参加していただきたいということを、環境教育イベントを企画している法人に伝えてきました。しかし、橋リサイクルコミュニティセンターはアクセスが悪く、集客性がないという指摘を受けています。

市民委員： それはイベントの内容に問題があると思います。市民プラザでイベントを実施した際は多くの人が来ています。駅から歩いて10分ぐらいなので立地が悪いわけではないです。

事務局： そもそも市民プラザを利用する人が多く、市民プラザでの用事のついでに見に来てもらえるのではないかと考えています。

市民委員： 面白い内容であれば、用事がなくても市民プラザに見に来てもらえると思います。内容を良いものにした上で、宣伝等を行えば良いと思います。

事務局： これは先ほどの法人の意見ですが、そこは国からも委託業務があるような、優れた活動をしています。訪問の際は、会長にもご同行いただきました。

市民委員： 橋リサイクルコミュニティセンターを継続して使うことを前提として、議論を進めてきましたが、それがひっくり返っています。

事務局： 以前から、やめた後にどこを変えるかといった議論を検討協議会でしてきました。普通であれば、リニューアルの方向で話が進むと思うのですが、資料を見てみると、やめることしか記載されていません。新しくリニューアルをして活用しようという話に対する回答を明らかにしてください。

事務局： 平成28年の整備計画の中で、橋リサイクルコミュニティセンターを活用できないかという方向にシフトしたこともありましたが、今の話ですと、橋処理センターが主体の環境教育に対して、橋リサイクルコミュニティセンターの建物を使った話になっています。

市民委員： 橋リサイクルコミュニティセンターを活用するための連絡通路の整備など、あの場所を使うという前提で、話を進めていたと思っています。

行政委員： 橋リサイクルコミュニティセンターを使うか否かに関わらず、橋処理センター内に環境教育のためのスペースは確保しています。

市民委員： 橋リサイクルコミュニティセンターの建物は残して、きれいにして使うということでよいか、早急に確認してください。変わっているのであれば途中で検討協議会に報告すべきです。

会長： 隣の土地は環境局が持っているのですか。

事務局： 環境局です。

市民委員： 先ほどからのやり取りを聞いていると、建物が無くなってしまうように聞こえます。

事務局： 建物をすぐに無くすような議論は出ていません。今、建物の中でやっている仕事が無くなって、中の業者がいなくなるということです。

市民委員： 建物は残りますが、名前はなくなるかもしれません。

事務局： あまりお金をかけられないのではないですか。

事務局： 何をするか定義をしないと予算措置ができないので、色々な人と話し合いをしています。例えばコンテンツの決定には、教育委員会の助けが必要にな

ります。そうった意味では、施設整備としては修正せざるをえないのではないかと感じています。

イベントを企画している会社にも相談に行っていますが、橘リサイクルコミュニティセンターは使いづらく、どちらかというと市民プラザが良いという意見をいただいています。管理の面でも、今は人員が足りないのでセンターの職員だけでは厳しいとのことでした。

また、橘処理センターの内部で想定している見学ルートが 775mあり、その後に連絡通路を通って橘リサイクルコミュニティセンターまで行くと 1 kmを超えてしまい、施設計画としては長すぎるので、改善が必要です。

市民委員： 今する話ではないと思います。

会 長： 同行した際に、橘リサイクルコミュニティセンターに充てられていた予算を橘処理センターでの環境学習に使えるといった話が出ていたと記憶していますが、報告から漏れています。

事 務 局： 今、橘リサイクルコミュニティセンターに充てられている環境学習の費用を、そのまま手当てしていただけることになっています。

使い道については橘リサイクルコミュニティセンターで継続するのであれば、そちらで継続しても良いですし、イベントをやるのであれば、イベントに充てても良いです。

市民委員： 大枠はあくまでも市が考えて、内容と予算を決めてから、業者に話をしていくのが普通の手順だと思います。

また、他のイベント会社の意見は聞いていますか。市の決めた内容をよりよいものとするためには、複数の業者に意見を聞く必要があると思います。橘リサイクルコミュニティセンターのアクセスが悪くても、使うことを前提としているので、うまく活用する方法を考えてください。

環境教育の重要性は深まっています。ごみ処理施設の見学の後、ついでに行くだけになってしまうと、議論してきたことの意味が無くなってしまいます。

事 務 局： コンテンツを含めて、これから整えていく内容を決めていきます。その中の一つとしてここをどのように使うかについては理解しています。話を聞いている中で、人を呼ぶ若しくは内容だけで呼ぶという話もありますが、橘リサイクルコミュニティセンターと市民プラザでは、単体で集客力があるのは市民プラザの方です。

市民委員： 結局のところ重要なのは、イベント内容です。

当然通行量が多い方が見に来る人も多いですが、市民プラザに用事がある人でも、面白いことをやっていれば橘リサイクルコミュニティセンターの建物に足は伸びると思います。

いかに集客力があるイベントをやっていくかが問われています。そのための内容や施設の整備を考えて、予算の組み立てをすべきです。

事 務 局： 要するに橘リサイクルコミュニティセンターで何をするかという話を決めないといけないので、イベントをやる上での橘リサイクルコミュニティセンターの強みを把握したいと思い、イベントを企画している業者に話を聞きました。

現状、ここにしか行けていませんが、複数の業者に話を聞くべきというのは、ご意見だと思います。

会 長： 橘リサイクルコミュニティセンターの建物も活用すべきという意見は、以前からありました。

事 務 局： もう少し議論を進めて行きたいので、この橘リサイクルコミュニティセンターの中身をどう使っていくのか、もう少し具体的な話し合いをしたいと思っています。何かアイデアでもいいのでいただけないでしょうか。

市民委員： 現状のゴミの問題とどう向き合えばいいのか、ということが分かれば流れが変わると思います。例えばここはごみ焼却処理施設なので、ごみ焼却処理施設でやる環境教育ということをコンセプトにすれば、筋が通ってくると思

- います。それから、叩き台を作って議論していけば煮詰まってきて、建物の活用方法が浮かんできます。それである程度固まったら、複数の事業者に話をしていけばいいわけです。
- 会 長： 本日の残り時間が少なくなっています。意見が出たまま、問題が解決していません。
- 市民委員： 市議会で、橘リサイクルコミュニティセンターが無くなる決定があったことに対しての報告ばかりで、これからの活用方法などの意見提示が無い点が気になります。
- 事 務 局： 橘リサイクルコミュニティセンターは、施設のあり方としてなくなるので、早急に中身について議論したいと思っています。なので、色々な意見を聞いてきました。どういう方向性で考えていくべきなのかという問題提起として表示しています。
- その一つとしては、まずコンセプトをきちんと固め、ごみ焼却処理施設の教育内容について報告すべきという宿題を頂きました。土台を決めた上で、内容もしくはさまざまな意見を聞くべきであって、内容の聞き取りを先行すべきでないと指摘を受けたと理解しておりますので、もう一度元に戻ってコンセプトとごみ焼却処理施設の教育内容についてまず固めます。それと共に、橘リサイクルコミュニティセンターをどう使うかという方向性を、出すべきだと理解しています。
- 市民委員： 川崎市として橘リサイクルコミュニティセンターをどうしたらよいのかという意見はないのですか。
- 事 務 局： その意見を出してしまうと、他に取りられてしまう可能性があります。そこより先にやりたいとは思っています。
- 市民委員： もう抑えていて、使える形ではないのですか。
- 副 会 長： 機能を廃止するにあたって、残った建物をどう使うかというのを、市のルールに則って全庁的に図っているところです。
- 市民委員： 橘処理センターと一貫して使うことを前提に考えてきて、連絡通路も作る事になっています。
- 副 会 長： まずは議会の方で、このような議決がされたことを報告させていただきました。環境教育学習をどう進めていくかについては、宿題という形でいただいたと思っています。環境学習に力を入れるというのは、動かないと思います。
- 次に橘リサイクルコミュニティセンターをどうやって本当に使っていくのかというところは、実際にこういう使い方をしてはどうか、といったご意見は聞かせて頂きたいと思っております。ただ、調査中ですので、本当にこのままあそこが使えるのかどうかというところさえも、少し厳しいところもあるかもしれません。
- 市民委員： 橘リサイクルコミュニティセンターも一貫して使うことを前提に、何をやるかという話し合いをしてきたわけですから、それは遵守していただきたいです。
- 事 務 局： 今日この場でこの話をさせて頂いたのは、地域住民の目線で、こういった活動をすれば集客力が上がるといった、前向きな提案を頂きたいと考えていたからです。
- 市民委員： 橘リサイクルコミュニティセンターの建物を継承しながら、新しいことをやろうという前提で今まで話をしてきました。ところが、今回そこが曖昧になってしまいました。
- 今まで環境教育について勘案する際は、橘リサイクルコミュニティセンターを使えると思って話をしてきました。
- 事 務 局： 何をやるのか、何をコンセプトにしていくかというのが重要であると捉えています。皆さんが納得していただけるような内容で、連絡通路があるべきかどうかの議論になるとと思っています。

- 会 長： 橋リサイクルコミュニティセンターの建物は、環境教育のために必要だから使うという前提のもとで、話を進めてきました。
- 行政委員： そういった経緯で、中身をどう整備していくかの話になっています。責任をもって、頑張って対応していただきたいです。
- 行政委員： 橋処理センターの中に、環境教育のためのスペースがかなり広く取れることが分かっています。
- 市民委員： 昔、小学生の見学の案内を何度もやりましたが、結構タイトなスケジュールです。私がいた、橋処理センターほど大きくない施設でさえ、90分でぎりぎりでした。時間内に収めようとすると、かなりの駆け足になってしまうので700mの見学通路ですと、かなりの時間がかかると思います。
- 市民委員： 私としては、その中で見学スペースをどんどん広げていくのが良いことなのか、少し疑問に思っているのは事実です。
- 市民委員： 具体的な長さを聞いたのは初めてなので、まだ具体的にどういうものか分からないです。場合によっては二箇所で2日間になるかもしれないですが、訪問についても現実的に考えましょう。
- 市民委員： まず現実的に、基盤になっていた条件がクリアされるかどうかを、次回までに明確にしていadakないと思います。
- 市民委員： 環境教育は必要ということは全会一致でよろしいですか？環境教育を行うにあたって、どれだけのスペースが必要か、事務局で調べてください。
- 市民委員： こちらは橋リサイクルコミュニティセンターを使って環境教育させようという立場で話していますが、そちらは同じ立場ではないように感じます。だから話が合わないのだと思います。
- 市民委員： 想像以上の建物ができていて、環境教育が橋処理センターで足りるのであれば、それでいいと思います。目的は何かということを、もう一回決めたほうがいいのではないですか？
- 市民委員： それは正論ですが、変更時点で具体的な情報提示がないとおかしいと思います。一番の問題は、信頼の中で一緒に環境を良くするための話をしているのに、方向性を急に換えられてしまって、我々としての対応ができないことです。
- 事務局： 今考えている橋処理センターの施設について、もう一度説明させて頂こうと思います。
- 市民委員： 環境教育に橋リサイクルコミュニティセンターが必要だから連絡通路を架けるということなので、必要なければ連絡通路はいらないと思います。
- 事務局： 何をやるのが重要なので、そこをまず議論しましょうと思っています。連絡通路をつくるか否かの議論は、そのあとだと思っています。
- 会 長： この検討協議会の場では、建設計画について議論をしてきました。その中で、連絡通路をつくることを提案されましたが、できそうもない雰囲気になってきています。これは、検討協議会での信頼関係に関わる問題です。
- 事務局： 発注仕様書には、連絡通路をつくることが明示してあります。間違いありません。
- 会 長： 有効的に使われないと、かけた値段が正しいか後で問われてしまうので、橋リサイクルコミュニティセンターの使い方については、今一度よく考えるべきだと思っています。
- 事務局： 何をするか提案して欲しいです。
- 事務局： 一つは、教育委員会の方から、GIGA 端末のコンテンツを充実して欲しいという要求があります。
- 市民委員： 学校教材のデジタル化との整合性を保つための要求であると思いますので、その点に異論はありません。まずは、内容のコンセプトを明確にしてください。
- 事務局： もう一度、コンセプトを作り直します。

デジタル教育に重きを置くのか、工作体験などを企画してその準備をするのかによって、施設にかかるコストが変わってしまうので、今方向性の確認をすることも重要だと思っています。

誤解を与えてしまったのかもしれませんが、橋リサイクルコミュニティセンターが廃止されても、建物は残ります。連絡通路をつくることも、発注仕様書には明記されています。あとは中身の議論だと思っています。

市民委員： 議論の内容によって、連絡通路をやめる可能性があるということですか？
事務局： 良いものを作って評価される方が良いと思っています。

市民委員： 一点確認したいのですが、橋処理センターで、具体的な CO₂ 排出対策を講じるのか否かを、明確にしてほしいです。ごみ焼却処理施設が、川崎市の CO₂ 排出量の 3～4 割を占めているのに、CO₂ 排出対策を講じない新規の施設をつくるというのは、環境に良いとは言えないと思います。

もし CO₂ 排出対策をしないのであれば、今まで環境を良くするために議論してきたことや、色々な排出基準をクリアしてきたことが、無駄になってしまうと思います。

会 長： 橋処理センターが、ごみ焼却処理施設として CO₂ を排出していても、対策を講じていることで、誇れる施設となると思いますし、対策の内容が環境教育の目玉に据えられると思います。

副 会 長： CO₂ を回収する施設の実証試験が、いくつかの都市で始まっていて、その中で、小田原市の CO₂ 分離回収施設の見学に行きました。しかし、かなり広いスペースが必要で、排出量に対する回収量もあまり多くない状況でした。

なので、今は回収をするための試験が行われている段階と、認識しておりました。

市民委員： 小田原市では実施されていませんが、回収した CO₂ と水素を反応させ、メタノールをつくっているところもあります。

50%減らす目標を立てているのに、CO₂ を排出しているごみ焼却処理施設に、何も策を講じないのですか。

副 会 長： 2030 年度までにごみ焼却場からの CO₂ を 24%減らすというのが、今回の脱炭素の計画の一つとなっています。昨年度末作った計画では、24%削減する対策として、CO₂ の分離回収は想定されておらず、皆さんに分別してもらうために、プラスチック製品を一括で集められるような体制を整えていこうということが入っています。まずはプラスチックを燃やして発生する CO₂ を減らすところから始め、2030 年度までに 24%削減するというのが、今回説明した計画の中身であるという認識を持っています。

だからと言って何もしないという話ではないので、脱炭素技術の開発状況は、常にキャッチし、市として、最新技術の導入などにチャレンジしていきたいと思っています。将来的に色々なところと協力して動くことになると思いますので、事業者の方のお話を聞きながら進めたいと思っています。

ただ、すべてがまだ実証の段階というのも事実で、来年の秋頃に完成を予定している橋処理センターの中に、まだ確立されていないものをこれから入れるというのは正直難しいと思っております。

会 長： 橋の旧施設において、HCl と NO_x の除去装置について、同じようなことがありました。除去装置無しのまま建設が始まり、結局、完成までに除去装置は整備しないことになりました。そこで近隣住民が立ち上がり、話し合った結果、公害防止協定で昭和 56、7 年頃には設置するという協定をしています。その協定をもって双方とも承知しました。

だから同じようなやり方もあります。

市民委員： 段階的な形でも、前向きに検討して実施する方向で、できるのかどうかを明確にしてほしいです。

- 副 会 長： しっかりと前向きに検討します。川崎市として 2050 年にはカーボンゼロを目指しているの、本当に必要なことはやっていくと思っております。
- 会 長： 2050 年とおっしゃいますが、2030 年の中間目標はどうするのですか。具体的に、何年には設置する、といった約束が欲しいです。
- 事 務 局： 現在の問題点についても、説明してください。
- 事 務 局： 分かりました。前回、会長が持参された新聞記事にありました、三菱重工環境化学エンジニアリングさんが、橘処理センターのプラント工事も担当しておりますので、三菱さんが見ている脱炭素の現状について、時間をいただいて紹介していただきます。
- 市 民 委 員： 小田原の方は日立造船さんが手掛けているプラント実証実験ですが、そちらの視察結果も報告したいと思っています。
- 市 民 委 員： 橘処理センターの、今後の脱炭素の戦略のことが聞けるということですね。横浜市の設備の話も聞きたいです。
- 事 務 局： 横浜市にあるものと同じ業者が手掛けているので、分離回収設備の現状は話を聞けばわかるようになると思います。
- 市 民 委 員： 設備を整備して欲しいという、こちらの意向は反映されていますか。
- 事 務 局： 会長からの指示もあり、発注仕様書の中に、分離回収設備のためのスペースを設けることを記載したので、これから技術革新をして付けられるものが出てきた段階で収めるスペースを確保することは考えています。
- 市 民 委 員： 将来的につけられるということですね。

3 事務連絡、その他

(1) 建設工事の工期延長について

【概要】

事務局より、工期延伸に伴う住民説明会開催の案内がありました。

【発言要約】

- 事 務 局： 8 月 5 日・6 日に住民説明を開催させていただきます。半導体不足の影響で、工期を延伸せざるを得ないと判断致しました。
- 会 長： 我慢していただく時間が延びてしまったことをご理解いただいて、なんとしても良い施設に整備していきたいと思っております。
- 会 長： 次回の検討協議会は 9 月 2 日の予定であります。会長と相談し、時間が許すようであれば、昼の時間帯の開催も視野に入れ、議論の時間をしっかりと確保したいと考えています。
- 会 長： 今回の検討協議会は重要な問題もありましたが、橘リサイクルコミュニティセンターの仕様を含め、環境教育の充実をはかっていくことになりました。そのための具体的な案も次回には考えたいということです。
- 会 長： それから、CO₂の分離回収についても、エンジニアを招いて具体的な説明を聞いた上で、橘処理センターでどうしていくかを考えることになりました。今までの検討委員会の審議を踏まえた上で進めたいと思います。
- 会 長： 本日の検討協議会はここでお開きにしたいと思います。

一以上